

## 第 18 回ソウル国際図書展参加レポート

昨年に引き続き、2012 年 6 月 20 日から 24 日まで開催された第 18 回ソウル国際図書展 (Seoul International Book Fair 2012、以下ソウルブックフェア) に行ってきました。昨年同様、会場はソウル市南側に位置する江南の COEX の A、B ホールです。

今年は「本を開けば未来が見える」をスローガンに、20 カ国 580 の出版社が参加し、126,799 名 (去年は 130,577 名) が来場したそうです。日本からは学研教育出版、トーハン、文藝春秋、ポプラ社といった企業に加え、個人の方もブースを出展していました。



会場は一般書、児童書、国際、ブックアート、電子出版などいくつかのコーナーに分かれており、メインは韓国国内の出版社のブースが立ち並ぶ一般書コーナーとなっています。



株式会社トランネット  
〒105-0012 東京都港区芝大門 2-1-1 第 2 境野ビル 7 階  
TEL: 03-6809-2980 / FAX: 03-6809-2981  
<http://www.trannet.co.jp>

フランクフルトブックフェアのような版權売買の場というよりは、東京ブックフェアと同様、国内の読者に対してのイベントという色合いが強いソウルブックフェア。多くの出版社のブースでは新刊書 10%引き、既刊書 30%引きのように書籍の割引販売が行われていました。

韓国では発行されている出版物の3割近くが翻訳書で、その割合が非常に高く、欧米の著者のタイトルはもちろん、日本人の著者の韓国語版タイトルも多く並べられていました(日本語になったら面白そうだなと思って手にとった本が日本語からの翻訳書だったということもしばしば)。



(日本でもおなじみのマイケル・サンデル教授のパネル)

一般書に次ぐ規模の児童書の展示コーナーもかなりの広さで、韓国国内の教育熱の高さを裏付けるかのように、熱気にあふれていました。特に目をひいたのは学習マンガシリーズ。日本でもよく見られる人物、科学など、あるテーマに沿ったシリーズに加え、韓国では算数、国語、英語といった小学校の教科別のシリーズも人気を博しています。その多くは主人公が活躍する冒険ストーリー仕立てのものとなっているのも大きな特徴です。



株式会社トランネット

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-1-1 第2 境野ビル 7 階

TEL: 03-6809-2980 / FAX: 03-6809-2981

<http://www.trannet.co.jp>



社会科見学や遠足なのか、学校の先生に引率された子供たちの姿も見られ、会場に入るやいなや所狭しと駆け回る姿や、お気に入りの本を一生懸命に読む姿が印象的でした。



電子出版コーナーは一般書、児童書コーナーに比べ、かなり小さい規模となっており、読書専用端末や電子書籍コンテンツといった一般ユーザー向けの展示ではなく、ほとんどが開発ツールを紹介するブースでした。Kindle(韓国では未発売)のような読書専用端末は韓国国内ではあまり普及しておらず、多くは iPhone、iPad のような iOS 端末や、GALAXY のような Android 端末で電子書籍が読まれています、まだまだ過渡期のようです。

その他、今年の主賓国であるサウジアラビアの文化、書籍を紹介するブースや、「ノーベル文学賞受賞作家特別展」「失われたハングル活字を探して」といった多様な特別展が開かれていました。



株式会社トランネット

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-1-1 第2 境野ビル 7 階

TEL: 03-6809-2980 / FAX: 03-6809-2981

<http://www.trannet.co.jp>



私は平日のみの会場訪問だったのですが、午後になれば一般のお客さんが多数来場し、各出版社のブースでそれぞれお目当ての本を楽しんでいる姿に、読書好きの国民性の一端を垣間見ることができました。(山)

Copyright(c) 2012 TranNet KK all rights reserved



株式会社トランネット  
〒105-0012 東京都港区芝大門 2-1-1 第2 境野ビル 7 階  
TEL: 03-6809-2980 / FAX: 03-6809-2981  
<http://www.trannet.co.jp>